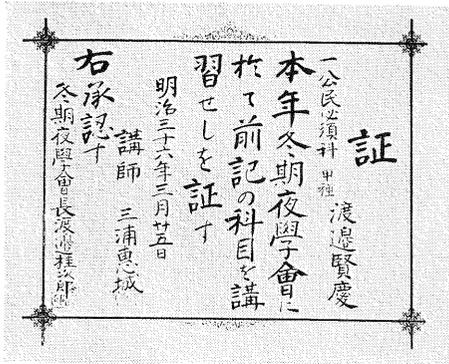


第三章 社会教育

第一節 戦前の社会教育

明治期における本県の社会教育は、石門心学の流れをくむものや、報徳運動など自然発生的なものであった。明治



夜学会講習証

後期になると青年夜学会、読書会や教育会を中心とする教育懇談会・幻燈会などが行われ、これを通俗教育と称した。またこのころから県下でも青年会や婦人会も漸次組織され、夜学会や修養会を聞くようになり、それは実業補習学校の経営・発展とも大いにかかわっていた。

鳴沢村における青年会の発足がいつごろから定かではないが、次の文書による大田和青年会の発足は、明治二十九年十月とあるから県下でも先端を行くものと思われる。その大田和青年会が優良青年団として明治四十三年、次のように文部大臣賞を受賞した。

青年団体ニ関スル件（起案文書）

本年九月廿九日付発普三七九号御通牒ニ係ル当管内所在ノ青年団中其ノ施設一般ニ宜キヲ得、且ツ其ノ補習教育ノ成績特ニ優良ト認メ候モノ左記ノ通ニ付、御奨励

相成度別冊取調書相添此段及上申候也

山梨県知事

文部大臣宛

記

山梨県西山梨郡朝井村西部青年報徳会

全 北巨摩郡塩崎村塩崎青年団

全 南都留郡鳴沢村大田和青年会

全 東八代郡相興村相興青年団

全 南巨摩郡都川村都川青年会

全 西八代郡市川大門町市川青年会

全 東山梨郡菱山村菱山青年会

全 中巨摩郡池田村池田青年力行会

計 八

鳴沢村大田和青年会

一、沿革ノ大要

明治二十九年十月一日創立、其ノ当時ハ頗ル見ルベキモノアリシモ漸次衰頽ニ傾キ遂ニ明治三十四年二月十一日役員会開
会以來一回ノ会合ダニナカリシガ、明治四十年三月二十一日再挙式ヲ挙ケ、尔來各部ノ活動着々其ノ効果ヲ見ルニ至レリ

二、目的及組織

本会ハ風俗ノ改善及勤儉貯蓄ノ実践ヲ期シ予テ智徳ノ上進發達ヲ図ルヲ以テ目的トス

會員ハ通常、特別、名譽ノ三種別トシ、通常會員ハ年齢十五年以上二十五年以下ニシテ本会々則ヲ遵守履行スルモノ、特別會員ハ年齢二十五歳以上ニシテ特ニ本会ノ為メニ功績アリ且ツ會員ノ模範トナスニ足ルモノ、名譽會員ハ本会ノ目的ニ賛同シ特ニ令聞アルモノ及一時金貳円以上ノ寄附ヲナシタルモノトス、而シテ各事業部ヲ設ケ各部長統率ノ下ニ會員能ク親睦シテ同心協力鋭意實踐躬行ニ力メ漸次其ノ基礎鞏固ニ向ヒツツアリ

三、會員數、資産及維持ノ方法

會員ハ通常二十八名、特別十一名、名譽二十八名、計六十七名
資産ハ基本金百三十六円八十八錢

林地九町七反四畝七步（借地）

桑園三反步（借地）果樹園一反步（借地）

備付圖書見積價格三十八円六十錢五厘

其ノ他器具價格見積代金三十七円八十一錢五厘、維持ノ方法ハ現金及労働ノ二種トナシ、通常會員ノ醸出ニ依ル
四、事業

既往及現在ノ事業トシテハ風紀部ニ於テハ公德心ヲ涵養及背徳者ノ矯正。積極的ニ公德心ヲ養成スルト共ニ一面ニハ消極的ニ区内ニケ所ニ風紀函ヲ設ケ背徳的行為ヲ敢テ為ス者ヲ投書セシメ懇篤説諭シ改悛セシムル事ニ努力シツツアリ、尚本部ニ限り委員六名アリテ献身のニ活動シツツアリ、其ノ他禁酒禁煙、善行者表彰、除雪等ニ対シ成績ヲ挙ゲツツアル。又実業部トシテハ造林、桑園、果樹園等ノ事業ヲナシ、共同作業トシテハ農休日及夜間ニ於テ採薪、草刈、藁細工等ヲナス、之等ノ取得ノ一部ハ個人貯金トナシテ現在高八十六円七十錢六厘ヲ計上スルニ至ル。又娯楽トシテハ楽器、碁、将棋等ヲ備ヘ日常ノ疲労ヲ慰メツツアリ。

尚将来ノ事業トシテ目下計画ニ属スルモノハ竹細工、講習会、速成桑園試作地、水車ノ設立等ヲナシ一般公益ヲ図ラントス

五、補習教育

會員全部村立大田和農業補習学校に入學スヘキ事ヲ議決実行セリ、從ツテ現在青年會員ハ全部補習学校生徒ニシテ補習学校トシテ教育上為シツツアル事ハ又青年會ノ教育事業タルナリ、毎年十月一日ヨリ翌年三月末日迄、毎夜七時半ヨリ九時半ニ至ル二時間指導ヲ受ケツツ学習セリ、其ノ学科目ハ修身（戊申詔書ノ講義）、国語（訂正日本実業読本）、農村適用補習読本、算術（尋常小学算術書五・六・算術小学教科書）、農業（農業教科書）等ニシテ、之カ指導者ハ小学校教員ニシテ一名、月手当式円ノ報酬ヲ受ケツツアリ。生徒ハ学力ニ依リ二組二分ケラレニケ年ヲ以テ修了スルコトトナレルモ、修了後尚研究生或ハ傍聴生トシテ出席シ得ラルルコトトナリ居レリ、出席ハ毎夜平均二十五名ニシテ、其ノ百中歩合ハ八十九人二分九厘ナリ

リ、其ノ成績佳良ナルモノトス

六、学校トノ連絡及其ノ他

小学校教員其ノ指導者ナルヲ以テ其ノ連絡ハ密ニ且ツ夜学会場ヲ学校ニ附設スルヲ以テ教育教具ノ如キハ総テ学校備付ノモノヲ使用ス、図書館トシテハ未ダ設備ナキモ簡易閲覧所ヲ置キ、蔵書數三十三部、外にお伽話類九種、雜誌類十二種ヲ有シ、尚新聞二種ヲ購ヒ備付ク。之等ハ會員并ニ一般者ノ閲覧ニ供シツツアリ。

通俗教育施設トシテハ講習會、通俗講話及幻燈會、学芸展覽會等ヲ開設シテ會員自己ノ修養ニ資スルト共ニ一般村民ニ聴講セシメツツアリ。

大田和青年會規約(省略)

大正十年に通俗教育の語を改めて「社会教育」と呼ぶようになり、十一年には訓令をもつて「社会教育施設要目」を公示して、小学校を中心として行ふ社会教育(講演會や講習會)と、社会教育団体が行ふ社会教育の内容を具体的に示した。後者については青年団が青年修養の機関として、また補習学校との関連において重要視され、大正十三年には山梨県聯合青年団が結成された。処女会の組織は少しおくれたが、大正十五年には山梨県聯合女子青年団が結成され、このころからぼつぼつ各地に婦人団体も結成されて活動を始めた。

鳴沢村青年団に関する記録が大正七年から昭和十五年まで残っている。鳴沢村青年団は歴史も古く、前記のように明治四十三年には文部大臣賞を受賞し、後記のように昭和六年には優良青年団として県知事から表彰されている。そのため青年団、補習学校、青年訓練所の視察者も多く、大日本青年団の機関誌「青年」にも掲載された。その記録はまことに立派に整備され、郡下のみでなく県あるいは全国的な青年団の発展の経緯や当時の世情を知る上で貴重なものである。その主なものを摘出記載することにする。

鳴沢青年団記録(青年団の社会的存在と活動)

大正七年度

○四月十九日、本年度総集會ヲ兼入退団式ヲ舉行スル。出席団員 鳴沢支部四三名、大田和支部三五名。來賓 村長渡辺民之甫（総理）、助役渡辺彰（副総理）、収入役梶原熊吉、鳴沢小学校長三枝惣吉、大田和小学校長宮本庄藏、在郷軍人会會長梶原昇平、学務委員渡辺牛藏、その他。
午後一時開會、鳴沢小学校

一、君ガ代

一、入退団者氏名報告

退団者渡辺正義外十七名（鳴沢支部 十一名）
大田和支部 六名）

入団者渡辺徳長外十五名（鳴沢支部 七名）
大田和支部 八名）

一、表彰状授与及優勝旗披露

一、総理ノ諭示

一、來賓祝辭

一、役員改選 団長渡辺徳重・副団長小林利隆

一、茶話會

○四月二十九日、富士北麓開発調査ノタメ來村セラレタル本県議會議員一行ヲ団員一同長塚ニ迎フ。

○四月三十日、前記ノ調査ノタメ本県知事山脇春樹氏一行ノ來村ヲ長塚ニ迎フ。鳴沢支部ニテハ湯茶ヲ備ヘテ歓待ニ力メ、帰リハ青木ケ原ヲ経テ精進ニ見送ル。

○五月十二日、産業組合中央會頭法學博士子爵平田東助閣下ノ一行ハ本村大田和信用組合視察ノタメ來村セラレバ団員一同、午前八時本村長塚ニ迎ヘ、大田和小学校内ニ於テ左記ノ講演ヲ聴キ、即日出發ニツキ前記ノ場所ニ見送リヲナス
講演、産業組合ト富士ノ靈峰。忠ノ字ノ釈義。

○五月十八日、山梨教育會南都留支會主催ノ通俗教育講演會ヲ本村大田和小学校デ開催スル。団員ハ午後七時ヨリ会場ノ準備其ノ他ニ俟痺シ、午後十二時マデ後記講演ヲ聴ケリ。

時局ト国民 大田和小学校長 宮本庄藏

所感 鳴沢小学校長 三枝愷吉

郡内名物 西浜小学校長 三枝文義

母の感化 船津小学校長 中山永治

家の取締り 小立村長 菅田義英

実行 南都留郡視学 伊藤基胤

○五月二十五日、本団團長渡辺義匡、副團長渡辺正義兩名ニ左記感謝状及木杯壹個ヲ贈呈ス。

感謝状

貴下本村青年團長在職中至誠克ク下ヲ率ヒ・学業ニ事業ニ修徳ニ躬リ以テ範ヲ示シ、戮力協心再ヒ優勝旗ヲ懸スノ光荣ヲ得シメタルハ之偏ニ貴下ノ徳ニ依ラズンハアラズ、今ヤ其ノ職ヲ退カルムニ当リ茲ニ木杯壹個ヲ贈呈シ聊カ感謝ノ意ヲ表ス。

大正七年五月一日

鳴沢村長 渡辺民之甫

全日、本團長及鳴沢・大田和両支部長ハ本日船津小学校内ニ施行セラレタル簡閲點呼ニ参加セリ。

○八月十七日、公文收受、南都留郡役所第三八〇号ヲ以テ米価暴騰ニ関スル件、收受。両支部長宛移牒ス。

○十月十六日、本團長及両支部長ハ本日鳴沢小学校内ニ開催セラレタル村長送迎会ニ参列シ、前總理渡辺民之甫氏ニ感謝状ヲ、当村長梶原重重郎氏ニ本団總理ノ推薦状ヲ贈呈ス。

○十月三十一日、各小学校ニ於ケル天長節拜賀式ニ團員一同参列ス。

○十一月六日、公文書收受、南都留郡農會特産物品評会ノ件ニツキ本村役場ヨリ通知ヲ受ク。

○十一月七日、本團長及各支部長ハ前件ニツキ村役場ニ出頭シ、家庭実習地ヨリ産出セル出品物ニツキ選定ス

一、牛蒡 二、大豆 三、蘿蔔 四、馬鈴薯 五、大根 六、白糖蜀黍 七、唐蜀黍 八、蕎麥 九、粟 以上九種拾壹点鳴

沢村青年團名義ヲ以テ出品スルコトニ決ス。

○十一月二十一日、公文收受、自治教育資料展覽会參觀ノ件、本村役場ヨリ收受、直チニ各支部ニ移牒ス。

○十一月二十二日、公文收受、村役場ヨリ入營兵士奉告祭並ニ兵士送迎ニ関スル通知アリ。

○十一月二十四日、団員全員本日村社八幡神社ニ於テ挙行セララルム入營兵士奉告祭ニ参列ス。南都留郡農會ヨリ本団出品物ニ

関シ左ノ通り褒賞セラレタリ。

参等賞 牛蒡 賞品トシテ鎌

四等賞 大豆、馬鈴薯、大根

本日鳴沢支部員ハ本郡役所内ノ展覽会ヲ参観ス。

○十一月二十五日、大田和支部員ハ本郡役所内ニ開催中ノ展覽会参観ヲ兼ネ見学旅行トシテ左ノ個所ノ参観ヲナス。

井田久活版所、谷村小学校、谷村区裁判所、山梨県立工業学校、桂電発電所、全明見取入口。

○十一月二十七日、本日ノ入営兵士壮行式ニ団員一同参列ス、本年ノ入営兵士ノ氏名左ノ如シ。

渡辺正義（水兵）、渡辺長治（歩兵）、渡辺正（歩兵）、渡辺猛男（騎兵）、渡辺武正（歩兵）、渡辺章（歩兵）、渡辺武雄

（歩兵）、渡辺殿紀（砲兵）、渡辺種宜（砲兵）、渡辺貴（水兵）、小林森茂（砲兵）、三浦明六（歩兵）、小林兵部（歩兵）。

○十二月十日、公文收受、村役場ヨリ退営兵士奉告祭ノ件通知アリ。

○十二月十四日、兵士葬儀。横須賀海兵团五等水兵渡辺正義氏流行性感冒ニ斃ル、本日葬儀執行ニ付、会葬シ弔詞ヲ呈ス。

○大正八年一月一日、各小学校ニ於テ挙行セラルル新年拝賀式ニ参列ス。

○二月十一日、小学校ニ於テ挙行セラレタル紀元節拝賀式ニ団員一同参列ス。

○三月六日、公文收受、南都留郡第二課長ヨリ軍事講話会ニ関スル件。

大正七年度概況

会員数二三八 内名誉会員七六、賛助会員六、特別会員九五、正会員六一。

退団者一七、入団者五。

補習教育 団員拳ツテ補習学校ニ就学ス

奨励事業 本団功勞者ニ感謝状及木杯贈呈ス、三。

公共事業 村内道路修繕ヲナス。

文書收受十九件、發送十三件

収入金、支出金八円参拾四銭

大正八年度

○大正八年度役員 団長渡辺徳重、副団長小林利隆、理事渡辺宮藏、小林恒久、支部長小林恒久、渡辺喜明。団員六六名（鳴沢三六・大田和三〇）。

○四月二十五日、南都留郡青年団第一回總會ヲ兼ネテ発団式ヲ挙行スルニ付テ、鳴沢村青年団員ハ黎明三時ニ起床シ、本団副総理三枝氏並ニ宮下氏引率ノ下ニ五拾六名ノ青年団員ハ午前四時意氣揚々ト谷村ヲ指シテ出發シタリ、東桂村方教寺ニ至リ休憩シテ亦急行ヲ続ケ、午前九時谷村ニ到着ス。午前十時開會ガ予告サレ、軍人団ト聯合ノ発団式並第一回總會ガ左ノ式次第ニ依テ開催セラレタリ。

一、会員・団員ノ整列

二、來賓着席

三、知事並支部長臨席

四、発団式 開會ノ辭、戊申詔書奉誦（団長）、勅諭奉誦（会長）、發会式辭（会長）、發団式辭（団長）、知事告諭、支部長

告諭、祝辭、答辭（会長・団長）、閉會ノ辭

五、總會 議事 一、在郷軍人分会宣言議事。二、青年団宣言、議事。

六、知事並支部長・來賓の退席

七、会員・団員の退場

谷村小学校庭ニ開催サレタ郡青年団ノ總會ハ左ノ議事ヲ決議シ、宣言ヲ誓イタリ。

宣言

現下ノ時局ニ鑑ミ戦後ノ趨勢ヲ稽フルニ吾人青年ノ自覚奮起ニ俟ツモノ甚大ナリ、自今益々結束ヲ鞏クシ歩武ヲ一ニシ相率キテ青年団ノ本旨ヲ貫徹シ以テ國家ノ進展ニ貢獻センコトヲ期ス。

決議

一、青年団ニ関スル訓示ノ趣旨ヲ体シ徹底シタル実行ヲ期スルコト

二、南都留郡青年団ハ在郷軍人分会及其ノ聯合會ト氣脈ヲ通シ互ニ補佐シテ其ノ目的ノ遂行ヲ期スルコト

三、町村内ノ數箇青年団ハ勉メテ之ヲ統一シ以テ其ノ團結ヲ鞏固ナラシムルコト

右決議ス

大正八年四月二十五日 第一回南都留郡青年団総会

午後一時ヨリ谷村座ニ於テ軍事ニ関スル講演会アリ、団員一同聴講シ、午後三時谷村ヲ発チ、午後九時過ギ帰村ス。

○五月七日、団員全員ガ小学校内ニ举行セラレタル皇太子殿下御成年式ニ参列シ、余興トシテ仮装行列ヲナシ、夜ハ提灯行列等ヲナシ中々盛会ヲ呈セリ。

○大正九年一月十六日、文部省・内務省ヨリ青年団ニ関スル訓令アリタリ。

○全一月二十八日、大田和小学校ニ教育会第三分会主催ノ民力涵養講演会アリ。太田郡長臨席並ニ講師古屋視学ノ臨席アリ（このころ民力涵養講演会、地方改良講習会、自治修養講習会等盛んに行わる）。

○全年二月五日、郡青年団評議会ニ渡辺団長出席ス、会議ノ状況左ノ如シ。

一、団員ハ努メテ剛健旅行、視察、遠足等ヲナスベシ

二、訓令ニ基キ自治精神ノ涵養ニ努ムベシ

三、青年団員ハ全部補習学校ニ就学スルコト

四、時世ニトモナフ読書ヲ普及スルコト

五、郡青年団の事業トシテ左記ヲ行フ。

運動会、講演会、雄弁会ソノ他、各自団員ハ弊風ノ矯正、農事ノ改良ニ努ムルコト

大正九年度

○役員 団長小林忠明、副団長小林泰明、理事渡辺邦治・稲田重義。

○十一月二十二日、団旗樹立式並優勝旗披露式ヲ左ノ次第二ヨリ挙行ス

一、開式 二、開会の趣旨（団長） 三、修板（神官） 四、除幕（団長） 五、最敬礼 六、祝詞（斎主） 七、玉串奉奠

八、君カ代 九、教育勸語奉読 一〇、戊申詔書奉読 一一、訓示（郡長） 一二、諭示（総理） 一三、報告（団長） 一

四、優勝旗披露 一五、受賞者披露 一六、感謝状贈呈 一七、祝辞（来賓） 一八、答辞（副総理） 一九、万歳三唱 二

〇、敬礼

大正十年度

○役員 団長渡辺邦治、副団長稲田重義、理事佐藤幸行・渡辺英一、評議員渡辺実・小林善保

○五月二十一日、本日午前七時ヨリ鳴沢小学校ニ於テ教育勅語並ニ皇太子殿下御令旨拝受式ヲ挙行セリ、出席者副総理二名、副団長及団員六十五名、八時閉会セリ。

○八月三日、郡青年団役員会ニ団長ガ出席、左ノ事項ヲ決議セリ。

一、皇太子殿下御来遊奉迎代表者選出

二、日本青年会館建設ニ関スル件

○十月二日、午前四時、団員二十四名兩副総理引率ニテ聯合青年団總會ニ出席ス、總會ノ次第左ノ如シ。

一、一同会場に整列 二、開会の辞（副団長） 三、令旨奉誦（団長） 四、団長ノ演辭 五、知事告辭 六、來賓ノ祝辭

七、宣言及決議發表

当日午後零時ヨリ野砲ノ視察ヲナス

大正十一年度

○役員 団長渡辺恒信、副団長小林之男、理事渡辺幸藏・小林善保

○十月一日、大田和支部ニテハ小学校ト聯合秋季運動会ヲ開催ス。

○十月二日、本団事務所内ニ評議員会ヲ開催、左ノ件ヲ議ス。

一、東宮殿下本月三日精進ニ御来遊奉迎ノ件

二、甲府ニテ御入峽ノ東宮殿下代表奉迎ノ件

代表者三名ハ団長渡辺恒信、副団長小林之男、旗手渡辺一明。

○十月三日、秋雨蕭然タル悪日和ニテ殿下ノ御入峽如何ト懸念シタレド、殿下ニハ御機嫌麗シク御入峽遊バサレ、団員一同長

浜村新道ニ於テ御奉迎ヲナス。

○十月五日、予定通り甲府市ニ於テ本県各青年団代表者ノ東宮殿下御奉迎ノ為、代表者三名出發セリ。

○十月六日、代表者ハ午前九時甲府中学校運動場ニ集合シ隊伍編成、十時四十分舞鶴公園広場処定ノ位置ニ整列、十一時十分

御台臨、長野知事代表シテ奉迎文奉誦、万歳三唱ノ後県庁庭園ニ於テ知事ノ訓示ヲ受ケテ奉迎ノ任ヲ終ル。

○十一月十二日、船津村船津座ニ開催ノ本郡青年団總會ニ団員一同出席ス、左ノ順序ニヨリ進行ス。

一、一同着席 二、開会の辞 三、令旨奉誦 四、団長ノ演辭 五、來賓ノ祝辭 六、青年団ノ表彰 七、団員意見發表

八、宣言及決議発表

団員の意見発表ニハ本団ヨリ団長渡辺恒信出演セリ、本団ハ南都留郡教育会長ヨリ表彰ヲ受ク。

大正十二年度

○役員 団長渡辺延雄、副団長三浦高男

○七月二十六日、南都留郡青年団評議員会ニ団長出席シ左ノ件ヲ議セリ。

一、郡青年団総集會ノ件

イ、期日 大正十二年九月二十三日午前十時

ロ、会場 谷村小学校内

ハ、挙行事項 1、社会情勢ヲ主トシテ名士ノ講演ヲナス 2、各団一人宛ノ演説ヲナス 3、余拳トシテ谷村座ニ於テ教育活動写真ヲ行フ、

二、県聯合青年団組織ノ件

イ、今秋ハ畏クモ我が摂政宮殿下御成婚大典御挙行ノコトニ就テハ、コレガ記念事業トシテ県下聯合青年団ヲ組織スルコトニ決議セリ

ロ、県聯合青年団評議員トシテ谷村青年団長、西桂青年団長及び船津青年団長ヲ選出セリ、補員トシテ明見青年団長ヲ選ベリ

○八月二日、船津小学校内ニ開催セル夏季大学課外講演会ニ団長外数名出席シ聴講セリ、講師吉田大俊氏、題目・有史以前ニ於ケル河口湖畔ノ住民ニツイテ

○大正十三年一月二十五日、此ノ度東宮殿下御成婚記念トシテ県聯合青年団創立セラレ、此ノ発団式ニ代表トシテ渡辺孝一、渡辺久徳、三浦高男、小林善男ノ四名出發セリ

○全一月二十六日、午前十時ヨリ甲府舞鶴城広場ニ於テ発団式ガ挙行サル。

○全二月二十日、南都留郡青年団評議員会ニ団長出席シ左記件ニ付キ議ス。

一、国民精神作興ニ関スル講演会ノ件、別紙日割ニ依リ順次講演会ヲ実施スルコト

二、県聯合青年団評議員選挙ノ件、郡ヲ東部、中部、西部ノ三部ニ分チ、各部ヨリ一人宛選挙セリ。東部ヨリ盛里青年団長、

中部ヨリ福地青年団長、西部ヨリ船津青年団長当選セリ

○全三月十三日、予定ノ通り玉木陸軍砲兵中佐ガ御講演ノ為メ出張サレル由、団長船津マデ御迎ヘセリ、団員一同長塚ニ於テ御迎ヘ致セリ。

○全三月十四日、大田和小学校内ニ開催セラレタル国民精神作興ニ関スル講演並ニ乃木大将遺物展覽会ニ団員一同出席セリ、講演終リテ団員一同玉木中佐ヲ長塚マデ送ル。

大正十三年度

○役員 団長渡辺団齊、副団長渡辺久徳

○五月十日、天皇・皇后兩陛下銀婚式祝賀記念雄弁大会ヲ鳴沢小学校ニ於テ開催ス。

○七月二十五日、本年五月、天皇・皇后兩陛下御成婚滿二十五年ノ御祝儀ニ際シ、男女青年団事業奨励ノ思召ヲ以テ特ニ内帑金ヲ下賜セラレタルニ付、勅旨ノ徹底ヲ期シ併テ聖慮ニ酬ヒ奉ルノ一端ニ資センガ為、県下市町村団長会ヲ甲府市磯山館ニ於テ開催セルニヨリ、団長大月癸一時十六分ノ汽車ニテ甲府マデ出張セリ。

○全七月二十六日、右会議ハ午前九時ヨリ開會、左ノ順序ニヨリテ進行セリ。

一、令旨奉読（県聯合青年団長）

二、知事訓辭（内務部長代理）

三、団長あいさつ（団長ハ県内務部長稗方弘毅氏、本月十日ノ評議會ニ於テ決定）

四、決議案付議（決議及宣言左ノ如シ）

決議

本年五月、天皇皇后兩陛下御結婚滿二十五年御祝典ノ佳辰ニ於テ全国男女青年団体教育事業御奨励ノ思召ヲ以テ、特ニ内帑金ヲ御下賜アラセラル。惟フニ曩ニハ東宮殿下ヨリ忝ナキ令旨ヲ賜ハリ今又優渥ナル御沙汰ヲ拜ス。聖慮深遠実ニ恐懼感激ノ至リニ堪エズ、爾今一層協心戮力修養ニ努メ以テ勅旨ニ副ハン事ヲ誓ヒ奉ル

右山梨県下町村青年団長会ノ決議ニヨリ御執奏方可然取計相成度奉願候

山梨県聯合青年団長 稗方弘毅

山梨県知事 黒瀬弘志殿

宣言

今ヶ世運ハ急速ナル進展ヲ示シ所謂普選法並陪審法等近ク其ノ実施ヲ見ントス、青年ノ修養ハ真ニ一日ヲ緩ウスヘカラサルノ秋ナリ、特ニ皇室ニ在リテハ忝クモ屢々青年団員ノ修養ニ関シ深遠ナル聖訓ヲ示シ給フ、吾人ノ任責一層重巨大ヲ加フルモノト謂フベシ。爾今以後一層奮勵協力修養ニ昂メ、以テ善良ナル公民、忠良ナル臣民タル資質ノ完成ヲ図リ、進テ社会ノ改善、国運ノ進展ニ寄与センコトヲ期ス

右宣言ス

大正十三年七月二十六日

山梨県下町村青年団長会

○全十月五日、西山梨聯合青年団ヨリ、築田郡書記引率ノ下ニ、各団ヨリ選抜シタ五名ガ本団視察ノタメ来村セルニツキ、総理宅ヲ依頼シテ宿泊セシメ、総理・副総理・団長及支部長ガ本青年団ノ状況ヲ説明シ、夜ハ補習学校男子部ヲ視察セリ。
○全十月六日、午前四時起床、西山梨聯合青年団員ト共ニ補習学校女子部ヲ視察シ、朝食後紅葉台・五湖ヲ案内シタリ。

大正十四年度

○役員 団長小林利隆

○全年五月十日、第一回弁論会ヲ鳴沢小学校ニ於テ左ノ順序ニヨリ挙行ス。

一、着席 二、敬礼 三、君カ代 四、開会ノ辞 五、令旨奉読 六、団員の演説 七、来賓ノ祝辞 八、告辞（総理）

九、閉会ノ辞 一〇、万歳三唱 一一、余興

団員ノ出演者氏名及演題左ノ如シ

- | | | |
|-----------|-------|------|
| 一、道德青年 | 鳴沢支部 | 三浦森雄 |
| 二、人間性ト軍備 | 大田和支部 | 渡辺 勇 |
| 三、規律アル生活 | 鳴沢支部 | 渡辺寅雄 |
| 四、人間ノ目的 | 大田和支部 | 小林喜重 |
| 五、お話 | 鳴沢支部 | 渡辺延恵 |
| 六、現代青年と信仰 | 鳴沢支部 | 渡辺国育 |

七、現代青年ノ覚悟

鳴沢支部

小林善男

八、自慢スル旅人

鳴沢支部

小林宇多枝

九、修養ト生活

鳴沢支部

三浦高男

一〇、青年の自覚

鳴沢支部

渡辺益夫

一一、思ったまま鳴沢婦人会

鳴沢支部

三浦ちゑ子

〇全八月二十五日 大石村水害見舞ノ為メ団長及各支部長大石村マデ出張、御見舞ノ上現場ヲ視察シテ午後四時帰村セリ。

〇八月二十九日、大石村ヨリ左ノ感謝状收受

感謝状

一、金拾円也

今回之水災に対し頭書之金員御寄贈被下難有拜受仕り候、該金員は全部被害之復旧と罹災者之救済とに充て、以て御寄贈の御趣旨に副ひ申すべき様取計ひ申すべく、先は略儀乍ら書状を以て取敢へず御芳情深く感謝奉り候也

大正十四年八月廿五日

南都留郡大石村長 堀内松利

鳴沢村青年団御中

〇全九月十六日、第二回雄弁会ヲ大田和小学校内ニ開催、左記順序ニヨリ進行ス。

一、着席 二、敬礼 三、君力代 四、閉会ノ辞 五、令旨奉読 六、演説(団員・婦人会員) 七、祝辞(来賓) 八、

告辞(総理) 九、閉会ノ辞 一〇、万歳三唱 一一、閉会

団員及婦人会員ノ演題・氏名左ノ如シ

欺く勿れ

鳴沢支部

渡辺直輝

天理教慈悲善行御一端

大田和支部

小林益夫

皇室中心主義

大田和支部

渡辺昂一

青年

鳴沢支部

小林宇多枝

剣舞(余興)

鳴沢支部

三浦漫行

現代青年の風潮と帝国の前途

大田和支部 渡辺依由

婦人会大田和支部 渡辺延子

婦人会鳴沢支部 三浦ちゑ子

婦人会大田和支部 渡辺安子

婦人会大田和支部 三浦増子

婦人会大田和支部 渡辺久子

婦人会大田和支部 渡辺ゑい

婦人会大田和支部 渡辺英子

○全九月二十三日、郡聯合青年団評議會午後二時ヨリ開會、左記決議ス。

一、幹部講習會開催ノ件

十一月十四、十五、十六の三日間、谷村町長安寺ニ於テ開催スルコト、講師 葦崎中学校長・武井社会教育主事、受講者

一団ニ付四名乃至五名

二、体育競技大会ノ件

十月二十七日谷村町工業学校庭ニ於テ予選大会ヲ兼ネ郡体育競技會ヲ開催スル事、郡ノ予選會ニ於テ優勝セルモノハ県競技會ニ、県競技會ニ於テ優勝セルモノハ明治神宮ノ競技會ニ出場スル。県競技會ニ出場スル選手ニハ郡青年団ニ於テシヤツ及ズボンを寄贈スル。

会場 甲府市山梨県師範学校校庭

○大正十五年三月十一日、青年団鳴沢支部、婦人会鳴沢支部合同ニテ敬老會ヲ鳴沢小学校ニテ開催セリ。

○全三月二十二日・船津青年団評議員四名ガ本村補習学校視察ノ為メ来村セルニツキ青年団総理宅ニ宿泊セシメ補習学校ノ狀況ヲ説明ス。

大正十五年度

○役員 団長小林喜保、副団長渡辺章愛、理事小佐野教雄・三浦楨太

○五月一日、郡青年団春季総集會ニ參會ス、団長以下五二名。

一、開会 二、君カ代 三、詔書・令旨拝読 四、兩陛下・兩殿下・本団ノ万歳三唱 五、前団長あいさつ 六、新団長あいさつ 七、団務報告 八、団員の意見発表(各団ヨリ一名登壇意見発表ヲナス、本団ヨリハ団長小林喜保「青年ノ使命」ト題シ発表スル)

午後一時再開、講演 谷村商工学校教官宮崎中尉が、「歐米各国ニ於ケル青少年訓練及帝国ニ実施セラルベキ青少年訓練ニツイテ」ヲ約一時間講演。

○五月十六日、大田和小学校内ニ開催セラレタル県教育会主催通俗教育活動写真映画会ニ団員一同出席シ聴講観覧セリ。

○七月十日、第二回県下青年団長大会ニ参加ノ為メ団長甲府ニ出張ス。

一、開会(午前十時) 二、国歌斉唱 三、令旨奉読(若尾副団長) 四、団長式辞(若尾副団長代行) 五、総裁訓辞(三辺総裁) 六、来賓祝辞(依田県会議長、石井市長、町田中佐) 七、議事(左ノ決議ヲナス) 八、研究発表(主トシテ青年団ニ関スル研究、拾名) 九、万歳三唱 一〇、閉会

決議

今ヤ我カ国振古来未曾有ノ国家的一大施設タル青年訓練ノ実施ヲ見ルニ至レリ、是カ成否如何ハ直ニ国家ト個人トノ運命ヲトスルニ足ル、吾人ハ斯ノ重大ナル施設ニ対シ全力ヲ尽シテ其ノ目的ヲ達成センコトヲ期ス

右決議ス

大正十五年七月十日

山梨県下町村青年団長大会

昭和二年度

○七月十日、船津村円通寺ニ於テ県下市町村青年団長大会が開催サレ、団長出席ス、ソノ概要左ノ通り。

一、開会(午後一時) 二、国歌斉唱 三、令旨奉読 四、団長式辞 五、議事

左ノ通り満場一致議決ス

吾人ハ国家ノ現状ニ鑑ミ団員相互ノ精神的団結力ヲ一層鞏固ナラシメ日ニ新ニ智能ヲ研修シ大国民タルノ資質ヲ発揚セン為、特ニ左記事項ノ徹底ヲ期ス

一、忠孝ノ本義ヲ体シ、立憲自治ノ精神ヲ顕養スルコト

- 一、心身ヲ鍛練シ質実剛健ノ氣風ヲ旺ナラシムルコト
 - 一、各自其ノ職分ヲ完フシ、共存共榮ノ実ヲ挙グルコト
 - 一、本団々報ヲ利用シ、常ニ団員相互ノ連絡ヲ密接ナラシムルコト
- 右決議ス

昭和二年七月十日

第三回山梨県市町村青年団長大會

昭和三年度

- 十一月二十八日、御親閲参加者入選ノタメ本會事務所ニ評議會ヲ開キ左ノ通り決定ス。
團長小林忠明 団員三浦樸太・渡辺久法
- 十二月四日、御親閲参加者三名ハ予行演習ノタメ都留中学校へ出張ス。
- 十二月十一日、御親閲参加者分列行進予行演習ノタメ團長及団員三浦樸太・渡辺久法ガ甲府市へ出張ス。
- 十二月十四日、御親閲参加ノタメ團長小林忠明、団員三浦樸太・渡辺久法東京へ出張ス、十五日帰村セリ。

昭和四年度

- 役員 團長三浦樸太、副團長小佐野玄作、理事渡辺森雄・渡辺久徳
- 四月十三日、千塚村青年団員四十名來村、茶菓ノ饗応ヲナシ、寢具及寢所ノ設備ヲナシ便宜ヲ計レリ、鳴沢支部役員全員出張ス。
- 十月三日、鏡中条村青年訓練所生徒四十名、訓練所主事並ニ指導員引率ノ下ニ入村、之ガ饗応ニ鳴沢支部役員、訓練所生徒並ニ指導員出張、補習学校視察、訓練所視察ニ甚大ニ便宜ヲ与エ、翌日午前八時出発セリ。

昭和五年度

- 役員 團長渡辺久徳、副團長三浦樸太、理事三浦富作・渡辺盛男
- 十一月二日、日比谷公會堂ニ於テ挙行ノ令旨奉戴十周年記念式並優良男女青年団、教育功勞者表彰式参加ト三日ノ明治節御親閲参加ノタメ團長東京ニ出張ス。
- 二月早朝原宿駅着、明治神宮ニ参拝、朝食後宿泊所歩兵第三聯隊着、手荷物ヲ置き記念式典ニ参加、午後四時半宿舍ニ帰

ル。

三日、二重橋前広場ニ於テ御親閲ヲ受ケ、修養団ニ宿泊。

四日、代々木練兵場ニ於テ陸軍各兵種ノ教練、模範体操、高等馬術・編隊飛行・戦車無線操縦等ノ諸演習ヲ見学シ正午終ル。

昭和六年度

○役員 団長渡辺倍将、副団長三浦富作、理事小林喜重・三浦富作

○七月一日、青年訓練所五周年記念ニ際シ、本団ヲ其ノ教育功績団トシテ、其ノ筋ヨリ山梨県会議事堂ニ於テ山梨県知事ヨリ表彰ヲ受ク。

○十月二日、下九一色村青年団ガ本団視察ノタメ来団ニ付、団長ガ事務所ニ出テ応対セリ。

○昭和七年一月八日・満蒙出征軍人家族慰問金ヲ送ルタメ団長船津ニ出張ス。

○全三月二十一日、谷村小学校デ開催サレタ郡青年団総集會ニ副団長以下十一名出席ス、午前十時開會、型ノ如ク進行シテ後、団員ノ五分間演説ニ入り、本団カラハ小林喜重君ノ意見発表アリ。午後〇時三十分再開、講演アリ、講師 陸軍中将四天王延孝閣下「支那問題ト其ノ因ツテ来ル処ト我ガ国民ノ覚悟」。

午後三時半、万歳三唱シ閉會スル。

昭和七年度

○役員 団長渡辺寅雄、副団長渡辺壹男、理事渡辺依由・渡辺政由

○五月十二日、県青年団ヨリ満州上海事變ニ関スル通牒アリ、直チニ各支部長ニ通告ス。

○八月十二日、農村副業振作ノタメ、県青年団ヨリ副業品出品方ノ件通牒アリ。

○九月二十四日、優良訓練所視察団来村ニ付、青年団評議員一同出勤シテ準備ス。

○九月二十五日、前日ニ引続キ準備ヲナス、夜十時視察団到着。二十六日午前十一時マデ視察ヲナシ散會ス。

○十一月二十三日、青年記念式ヲ補習学校ト合同デ挙行ス。郡聯合青年団主催巡回講演會ヲ大田和小学校ニテ開催、団員一同及ビ小学校生徒、村内有志等多数出席セリ。

講師 県社会教育主事 加藤弘毅

演題 現代青年ト自力更生

- 昭和八年二月十二日、第六回青年団創作副業展覽会並第三回一人一研究資料展覽会ニ関シ県青年団ヨリ通牒アリ。
- 全三月三日、東京朝日新聞記者矢崎旭氏、本団ノ情況視察ノタメ村役場ニ来訪セラレ、団長・副団長ニテ説明応答ヲナシタリ。

昭和八年度

- 役員 団長小林仁良、副団長小林喜重、評議員三浦秀儀・小林金雄
- 十月二十五日、県聯合青年団伊勢神宮参拝二八名参加申込ム。
- 十一月二日、国民精神作興ニ関スル詔書渙発十周年記念式挙行方ノ件ニ付、県学務部長ヨリ通牒ヲ受ク。
- 十一月十日、詔書渙発十周年記念式ニ団員一同参加セリ。

昭和九年度

- 役員 団長小林喜重、副団長渡辺頼恵、理事清水政由
- 五月二十九日、県青年団長ヨリ皇太子殿下御降誕奉祝記念青年修養道場建設資金募集ニツキ通牒アリ。
- 六月四日、県青年団長ヨリ満州派遣軍家族第三回慰問金募集ニ付キ通牒アリ。
- 十月八日、公文收受、山梨産業組合青年総聯盟理事長三枝治郎氏ヨリ第一回山梨県産青聯大会開催ニ付キ招待状ヲ受ク。
- 同日大日本青年団資料展ニ左記品目ヲ贈呈スル。

- 一、鳴沢青年団沿革史一冊（複写）
- 一、会則、団則一冊（複写）
- 一、大田和支部敬老会記念写真三枚
- 十月十四日、聖恩旗奉戴国民精神作興旗樹立式（雨天ノタメ県會議事堂）並ニ第一回山梨県産業青年聯合会ニ出席ノタメ団長ガ甲府ニ出張ス。

昭和十年度

- 役員 団長小林道、副団長清水政由、理事佐藤信與・小林金雄

青年団、婦人会などの社会教育の組織や活動は、特に戦時体制が進行する過程において次第に強化されていった。昭和十二年から国民精神総動員の展開とともに、その主導的役割を果たしたのが社会教育であつて、特に満州事変以降は急速に国家主義意識を高揚するための活動に中心をおくようになった。前記鳴沢村青年団の記録から概要を次に記載する。この記録は昭和十五年度で終わっている。

- 昭和十三年九月十日、林副総理が県学務課ニ出頭シ、勤労報国隊旗ヲ受領ス。
- 全九月二十五日、林副総理瑞穂村村葬ニ参列ス。
- 全十月九日、林副総理勝山村村葬ニ参列ス。
- 全十一月十日、勤労報国隊旗立式ヲ举行、式後奉仕作業ヲ実施。
- 昭和十四年四月十二日、林副総理船津村村葬ニ参列ス。
- 全年四月十四日、林副総理瑞穂村村葬ニ参列ス。
- 全年四月二十三日、林副総理勝山村村葬ニ参列ス。
- 全年六月二日、林副総理大石村村葬ニ参列ス。
- 全年十一月十二日、満蒙開拓青少年義勇軍ニ対スル激励袋八個ヲ県社会課宛発送スル。
- 昭和十五年一月十四日、青年団木炭増産勤労報国運動ニ贊シ、木炭産出作業ニ着手。
- 全年三月七日、木炭増産作業終了、生産量百三十九俵。出勤延人員百四十九人、外ニ雇二十二人、生産物ハ村役場、小学校、組合等ニ配給ス。
- 全年三月十二日、林副総理大嵐村村葬ニ参列ス。
- 全年六月十三日、大日本青年団総務部編集課勤務水谷豊氏、青年団状況調査（雑誌「青年」登載ノ原稿蒐集ノタメ）ニ來村ス、林団長代理、梶原総理、支部役員多数列席ス。
- 全年六月二十五日、満蒙開拓義勇軍並開拓士慰問用絵葉書二十組ヲ郡団宛発送ス。
- 全年十一月二十日、佐藤茂虎鳴沢支部長、渡辺勇治副支部長ガ明治神宮外苑ニ举行ノ紀元二千六百年・令旨奉戴二十周年奉祝大日本青年団東部動員大会に出席。

○全年十二月三日、午前十時ヨリ、十一月二十日下賜ノ詔書並命旨奉戴式ヲ鳴沢小学校デ開催ス。

○昭和十六年一月十三、十四日、団員渡辺卯多美・小林照雄が谷村町ニ開催ノ興亜運動協議会に出席ス。

日華事変ほつ発以降は男子青年団のみではなく、女子青年団も銃後後援の事業を行い、慰問袋や慰問文の発送のみでなく、青年団の聯合演習に女子のモンペ姿の分列行進もみられるようになった。また婦人会でも愛国婦人会や国防婦人会による銃後活動が行われていった。

第二節 戦後の社会教育

一、社会教育委員会

昭和二十年十一月六日、文部次官通牒「社会教育ニ関スル件」が発せられ、民主的な平和国家建設のための社会教育が発足した。そして二十四年六月十日「社会教育法」が公布され、戦前戦後を通じ初めて社会教育が法的根拠をもつようになった。

社会教育委員制度は戦時中にもあり、昭和八年五月、県は訓令をもって「山梨県社会教育委員設置規程」を告示した。しかしこれは戦時体制強化のためのものであつて終戦とともに廃止された。そして新しく社会教育法によつて都道府県及び市町村に社会教育委員会制度が取り入れられたのである。県では昭和二十四年に委員が任命され委員会が構成されたが、市町村では二十三年十一月に百七十七町村が設置し、二十三町村が未設置であつた。

○鳴沢村歴代社会教育委員

昭和四十九年度・五十年

渡辺駒男、渡辺芳男、渡辺長、小林一吉、渡辺勝雄、田中ささ子、小林さちこ
昭和五十一年度・五十二年度

渡辺駒男、渡辺芳明、渡辺長、小林一吉、渡辺勝雄、田中ささ子、小林さちこ
昭和五十三年度・五十四年度

渡辺駒男、渡辺芳明、渡辺長、小林一吉、中沢進、田中ささ子、小林さちこ
昭和五十五年度・五十六年度

渡辺駒男、渡辺長、小林一吉、渡辺芳明、梶原哲郎、渡辺重男、小林昭輪
昭和五十七年度・五十八年度

渡辺駒男、渡辺長、渡辺芳明、小林一吉、渡辺重男、小林昭輪、宮崎弘
昭和五十九年度・六十年度

渡辺重男、小林昭輪、渡辺一朗、梶原左京、渡辺喜猶、渡辺常雄、宮崎弘
昭和六十一年度

渡辺重男、小林昭輪、渡辺一朗、梶原左京、渡辺喜猶、渡辺常雄、室崎弘

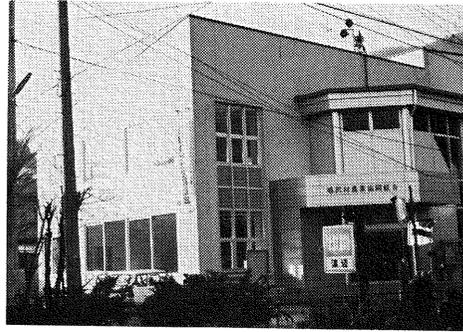
二、公民館の設置とその活動

昭和二十一年七月五日、文部次官通牒「公民館の設置運営について」によって、県は市町村に対して公民館を設置するよう奨励に努めた。二十四年三月末で県下公民館数は十四町村十四館で設置率七・三%であったが、二十四年六月、社会教育法の公布によって公民館の法的根拠が与えられ、低調であった公民館の設置や公民館活動もこれを契機に活発となり、成人学級、母親学級、婦人学級、高齢者教室などが開かれるようになった。

本村における公民館の設立は次のようである。

○鳴沢村公民館（本館）

木造二階建亜鉛葺 昭和二十六年七月十八日竣工



鳴沢村公民館

鳴沢村公民館鳴沢青年学級（昭和二十九年度）
学習時間・学級生徒

学級生徒	一般教養	家事	職業	月
五三	一六	五	四	四
五五	一六	五	四	五
五五	一六	五	四	六
五九	一六	五	四	七
四九	一六	五	四	八
六四	一六	五	四	九
六六	一六	五	四	一〇
七〇	一六	五	四	一一
七〇	一六	五	四	一二
七〇	一六	一七	七	一
六八	一六	一七	二〇七	二
七〇	一六	一七	七	三
七〇	一九二	九六	二五七	計

講堂（一九五・八五〇[㎡]）、会議室（三七・一六四[㎡]）、実験・実習室（一階と二階にあり計七五・二四三[㎡]）、事務室（一六・七三六[㎡]）、図書室（八・二六二[㎡]）等あり。それに設備としては、一六ミリ映写機、電番、洋、和裁実習設備、卓球台（二）などがあつた。昭和二十七年四月一日開館。

○鳴沢村公民館大田和分館
木造平家建亜鉛葺 昭和二十七年七月二十二日竣工
講堂（一五八・六四五[㎡]）、会議室（二九・七四六[㎡]）、ステージ兼会議室（三六・三五六[㎡]）等あり。設備としては、電番、ステレオ電番、ミシン、卓球台などがあつた。昭和二十八年四月一日開館。

昭和二十八年八月十四日、「青年学級振興法」が制定され、県も青年学級の育成強化に努めたので、各町村に青年学級が開設されるようになった。昭和二十九年度における鳴沢村青年学級の実績は次のようであつた。

青年学級主事 渡辺伴蔵

講師 小林美知 古谷文一 安藤順正 伊賀上玄教 地下なつ

講師補助 小林喜重 渡辺はな子 清水ふじ子

鳴沢村公民館大田和青年学級

学習時間・学級生徒

	月												計
職業	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一	二	三	二五七
家事	五	五	五	五	五	五	五	五	五	八	八	八	六九
一般教養	一六	一九	一九	一九	二〇一								
学級生徒	四五	四〇	三〇	三〇	三〇	三五	三五	三八	三八	四一	四五	四五	四五

青年学級主事 寺村忠良

講師 長坂昌守 飯窪渉 三浦堯

講師補助 和泉さち子 渡辺勝美

県は昭和二十七年より優良公民館の表彰を行っている。

第一回（二十七年）

春日居村公民館（東山梨） 富士見村公民館（東八代） 栄村公民館（西八代） 万沢村公民館（南巨摩） 鏡中条村公民館（中巨摩） 穂足村公民館（北巨摩） 忍野村公民館（南都留） 富沢村公民館（北都留） 富士吉田市公民館

第二回（二十八年）

万沢村公民館（南巨摩） 鏡中条村公民館（中巨摩） 増富村公民館（北巨摩）

第三回（二十九年）

加納岩公民館（山梨市） 花鳥村公民館（東八代） 下山公民館（南巨摩）
第四回（三十年度）

陸沢村公民館（中巨摩） 鳴沢村公民館（南都留） 猿橋公民館（北都留）

教社第九ノ一三号

昭和三十年十月十一日

山梨県教育委員会

各地方教育事務所長

第五回山梨県優良公民館の表彰について

優良公民館の推薦については種々御配慮を煩わしましたが次のように決定されましたので御了承願います
ついでに左記により表彰式を挙行いたしますから御通知いたします

なおお手数ながら被表彰公民館に対しては当日必ず出席されるよう貴職からも御連絡下さるようお願いいたします

優良公民館 鳴沢村公民館

優良公民館 猿橋公民館

準優良公民館 陸沢公民館

一、日時 昭和三十年十月十三日（木）午前十一時から

一、場所 山梨県立市川高等学校講堂

副賞として掛時計 四、〇〇〇円一個

額縁 三〇〇円一個

表彰状

南都留郡鳴沢村公民館

右は郷土における生活文化の向上、社会福祉の増進等のため有益な事業を行い、地域社会の民主的発展に貢献した
よって優良公民館として表彰する

昭和三十年十月十三日

表彰条件（鳴沢村公民館）

専任職員一人、兼任一人、分館一（大田和分館）

予算 四〇九、八〇〇円（住民一人当一八〇円）

一ヶ月間延利用人員 三、四〇〇人

定期講座 青年学級、婦人学級、成人学級

広報活動 館報年六回 一回一、二〇〇部 外臨時数回

公民館表彰要項各項に適合しており、その活動は活発である。都市的形態をなした中に良くその実情に即した活動が行われている。

本年度重点目標

農業経営の合理化 商業経営に対する教育の振興

このようにして、公民館活動が盛んになっていったので村は専任の社会教育主事一名を置くとともに、昭和五十二年社会教育指導員設置事業補助金（四十万八千円）を得て、社会教育指導員設置規則を設け、社会教育指導員一名を置いた。

鳴沢村社会教育指導員規則（抄）

第一条 本村の社会教育の振興をはかるため社会教育指導員（以下指導員という）を設置する

第二条 指導員は次の各号の要件を満たすことができる者のうちから教育委員会が委嘱する

一、円満な人格を有し健康で活動的であること

二、社会教育または学校教育の経験を有するものであること

三、社会教育一般に関して豊かな識見を有し、かつ社会教育に関する指導技術を身につけていること

四、年齢六十五歳未満であること

第三条 指導員は非常勤とし、任期は一か年とする、ただし三か年を越えない範囲内で再任を妨げない

第四条 指導員は教育委員会の指示により次に掲げる事項について職務を行う

一、社会教育関係者及び社会教育関係団体との連絡を密にし、社会教育の総合的な推進をはかる

二、社会教育の指導・学習の相談

三、在学青少年教育、婦人教育、高齢者教育、家庭教育に関する学級の運営・指導並びに助言

四、公民館事業の活動促進

前項の職務について必要な事項は教育長が別に定める

第五条 この規則に定めるもののほか必要な事項については鳴沢村教育委員が別に定める

この年、次の者を社会教育指導員に委嘱した。

梶原芳枝（三十一歳） 鶴見女子短期大学卒業、元中学校図書館司書、報酬月額五五、〇〇〇円

昭和五十二年における社会教育活動

(一)、昭和五十二年社会教育施設活動促進費事業（公民館活動） 県補助六〇万円

事業

(1) 読書活動 購入冊数四七五冊 延指導者数 四〇〇人

(2) グループ活動

なるさわ読書グループ 二五人 年間三〇時間

活動内容 (イ)としよりのハイキング (ロ)人形劇づくり

おおだわ読書グループ 二三人 年間三〇時間

活動内容 (イ) 野外活動（キャンプ等） (ロ) 宿泊研修（少年自然の家） 親と子のふれあい

(ハ) おとしよりからならおう（民芸品づくり）

(二)、乳幼児学級

事業の名称 なるさわお母さんの勉強室

対象 鳴沢保育所の保護者

参加者 四〇人（男一〇人 女三〇人）

実施場所 鳴沢中央公民館

実施期間 八日間（四月一日～三月二十七日）

講師・助言者 実人数八人、延人数一六人

学習内容

テーマ 子どもの創造性をのばすには

(1) 開級式 お母さんと一緒（子どもと父母の交流レク） 実技三時間

(2) 心理理解 臨床心理学的手法を生かして
サイコードラマ 親子関係テスト 講義・実習フォーラム 九時間

(3) 創造性とは はり絵づくり 実習・話し合い 六時間

(4) 入学をひかえて TVフォーラム パネル討議 三時間

(三) 鳴沢村成人学級

事業の名称 鳴沢村成人学級

対象 鳴沢村に在住する成人男女

参加者 三〇人（男二〇 女一〇）

実施場所 鳴沢村中央公民館

実施期間 八日間（七月一〇日～三月二六日）

講師・助言者 実人数三人 延人数二〇人

学習内容

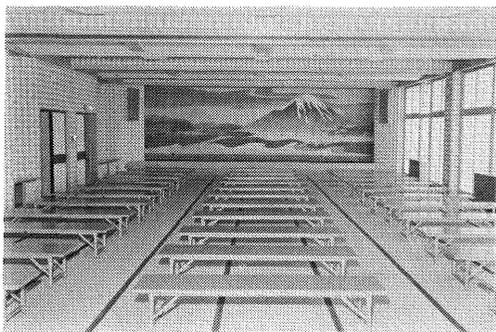
(1) わが国の農業事情と農業政策

講義、フォーラム 五時間

(2) これからの農業経営と生活設計について

見学、話し合い 六時間

(3) 野菜の需給と価格の見通し



総合センター大広間

- フィルムフォーラム 二・五時間
- (4) 野菜の販売経路について(農協組織について)
講義、パネル、討議二・五時間
- (5) 本村の農業とのかかわり(国・世界の動向をふまえて)講義、フォーラム 四時間
- (6) 農業後継者問題(青年と老人との交流)
話し合い、四時間

計二四時間

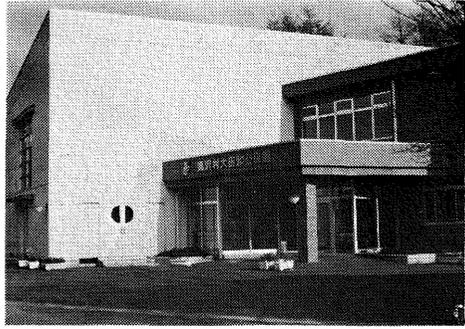
備考 純農村であるので、成人の最も関心事の農業の問題をとらへて考えていく中で、成人・地域とむすびつけていく。また家の柱として家族生活もとり入れていきたい。

◎鳴沢村総合センターの建設

鳴沢村では昭和二十六年に建設した木造の中央公民館が狭隘で老朽化したので、近代的な施設設備をもった中央公民館を、鳴沢・大田和両地区の中間、境野の環境さわやかな平和が丘の高台に建設した。この公民館は、中央公民館とともに老人福祉センターを兼ね鳴沢村総合センターと呼称している。

昭和四十九年六月二十九日着工し、五十年四月八日竣工した。設計監督は富士吉田市株式会社ブレインズ社、施工は河口湖町株式会社梶原工業所である。

構造は鉄筋コンクリート造り二階建て、敷地面積六、二一七㎡、建築面積一、六〇四㎡、一階八八〇・六㎡、二階六八四・七㎡、塔屋三八・九㎡で、建設費は本体工事費、付帯工事費、調度備品費、設計監督費等を合計して二億九百八十三万二千元であった。一階にロビー、会議室(和室)、相談室(和室)、娯楽室(和



大田和公民館

室、面接室(和室)、機能回復訓練室・料理教室・浴室・事務室・管理人室等があり、二階に講堂・会議室(視聴覚教室)・華道室(和室)、図書室、郷土資料展示コーナー等がある。

◎鳴沢村大田和公民館の建設

鳴沢村公民館大田和分館も昭和二十七年年度の木造建築で、狹隘となり老朽化したので、地区の要望により近代的な公民館を建設することになり、昭和五十九年四月九日竣工した。鉄筋コンクリート二階建て、設計監督は富士吉田市株式会社ブレインズ社、施工山中湖村共進建設株式会社である。敷地面積一〇九七、一八[㎡]、建築面積六三九・五九[㎡]、一階四四八・二九[㎡]、二階一九一・三[㎡]で、建築費は本体工事費、調度備品費、設計監督費、地質調査費、事務費等を含めて、合計九千六百八十一万九千円であった。

一階は講堂、ホール、研修室(二)、調理実習室、児童室兼図書室、管理事務室等があり、二階に会議室(一)、研修室、資料室等がある。

○公民館運営審議委員(昭和六十一年度)

代表 渡辺重男

委員 小林昭輪、渡辺一郎、梶原左京、渡辺喜猶、宮崎弘

(歴代公民館運営審議委員は社会教育委員が兼任なので省略)

第三章 社会教育

○歴代公民館長

職名	氏名	種別	就任年月日	退任年月日
館長	小林才一	鳴沢公民館	昭二七、 〃二七、	昭二九、四、 〃二八、六、
副館長	渡辺世兵	鳴沢公民館	〃二七、	〃二九、三、一
副館長	渡辺英治	大田和分館	〃二七、 〃二七、	〃二九、三、一
副館長	渡辺和一郎	大田和分館	〃二七、 〃二七、	〃二九、三、一
分館長	渡辺喜明	大田和分館	〃二九、 〃二九、	〃三〇、 〃三〇、
分館長	渡辺伴蔵	鳴沢公民館	〃二九、	〃三一、一、三二
館長	加賀上玄教	鳴沢公民館	〃三一、 〃三一、	〃三二、 〃三二、
館長	渡辺勝義	中央公民館	〃五〇、 〃五〇、	九、九、 九、三〇
館長	小林孝重	中央公民館	〃五四、 〃五四、	一〇、 一〇、
			一現在	

◎勤労青年センターの建設

この施設は山梨県が勤労青年の余暇活動と仲間づくりの場として、若いエネルギーを豊かな「ふるさと」に定着させることを目的に、富士北麓広域圏（富士吉田市・河口湖町・西桂町・忍野村・山中湖村・勝山村・足和田村・鳴沢村）の施設として、鳴沢村前丸尾に建設されたものである。したがって正式の名称は「富士北麓地方勤労青年センター」である。

敷地面積二、〇二六㎡、建物面積一、一六四㎡、鉄筋コンクリート三階建て、昭和五十五年三月三十一日竣工。建設費一億八千五百四十四万円で、一階は駐車場、二階は集会室、講習室、図書室、事務室、管理人室、三階は娯楽・談話



勤 労 青 年 セ ン タ ー

室、茶道室、華道室、料理室、会議室等がある。

三、社会教育の現状（昭和六十一年度）

目標 人間性豊かな実践力のある人づくり

- 1、教育の論議をたかめ、風土に根ざした鳴沢教育を推進する
- 2、学ぶ心を高め、様々な要望にこたえる成人教育をすすめる
- 3、親のあり方や役割りを学び実行する、家庭教育の充実に努める
- 4、青少年のすこやかな成長のために団体活動や社会参加活動をすすめる
- 5、地域文化の振興を図るための団体育成や文化財保護、文化財に対する理解を高める活動を推進する

社会教育計画

(一) 総合・振興

事業名	内容	対象	期日	場所	備考
鳴沢（山梨） 教育の推進	地域の教育力を高め、地域に根ざした特色ある教育をすすめる	一般	年間	全域	鳴沢教育をすすめる会を中心に推進する
社会教育委員 会の会議	社会教育の振興と充実をはかる	社会教育委員 会	年間 六回	総合センター	
公民館運営審 議会	公民館活動の活発化をはかる	公民館運営審 議会委員	年間 六回	総合センター	

第三章 社会教育

		(一) 家庭教育			
事業名	内容	対象	期日	場所	備考
すこやか育児相談	子育ての悩みを出し合いそれについて専門家のアドバイスを聞く	〇～三歳児をもつ母親	六、二七夜 一、二、四夜	総合センター	役場民生課と共催
CATV利用講座・活動の紹介	加入率七〇%のCATVを利用し講座や活動を放映する(特に青少年事業に力を入れる)	村民	年 間	全 域	鳴沢教育を進める会を中心に推進する
図書館利用者会議	図書館利用の活発化をはかるため、利用者代表により、方策を検討する	利用者代表	年 間	総合センター	
社会教育委員の研修	社会教育委員の資質を高め、社会教育の振興をはかる	社会教育委員	年 間	県 外	
文化祭	地域文化の向上をはかるために、作品の展示、芸術鑑賞、講演などを行う	一 般	一、一八(日) 一、二四(土) 一、二五(日)	総合センター	一月十八日に講演
社会教育団体の育成	各種の社会教育関係団体の活動を援助し育成する	社会教育団体	年 間		
社会教育施設の充実	社会教育の基点となる施設について、拡充・整備をはかる		年 間	全 域	
各種情報の提供	社会教育に関する情報を各種の方法により提供する	一 般	年 間		

家庭教育情報 の提供	文集「石南花」 の発行	高校生の親の つどい	中学生の親の つどい	鳴沢小学校家 庭教育学級	手をつなぐ子 育て学級
各学級が終了後、都合で参加でき なかった人のために講演内容を紹 介する	子育てに関する様々な意見や感想 を書いてもらい発行する	高校生の家庭教育のあり方を考 え、地域ぐるみで健全な育成をは かる	中学生の家庭教育のあり方を考 え、地域ぐるみで健全な育成をは かる	小学生の家庭教育のあり方を学 び、地域ぐるみで健全な育成をは かる	子育ての学習と共に親同士の連携 を強め、家庭教育を推進する
保育所・小中 学校の保護者	保育所保護者 会と保育園児 の祖父母	各高等学校P T A会員	中学校P T A 鳴沢分会役員	小学校・小学 校P T A	保育所保護者 会
年 間	昭和六二年二月 三月	七、一八夜 一、二、二〇夜	七、九夜 一、二、六夜	六、四(水) 一〇、二(水) 一、一、一三(水) 二、七(金)夜	五、一〇(土) 六、一五(日) 一〇、一一(土) 一一、一(土) 一一、八(土) 一一、二二(土)
	鳴沢保育所	総合センター	総合センター	鳴沢小学校	鳴沢保育所
各教育機関との 連携による	保育所・保育所 保護者会と共催	高生連と共催	中学校・中学校 P T A鳴沢分会 と共催	小学校・小学校 P T Aと共催	保育所、保育所 保護者会と共催

第三章 社会教育

(白) 青少年教育

事業名	内容	対象	期日	場所	備考
成人式	新成人を祝福し、その自覚をたかめるつどい	新成人	一、一五	総合センター	
立志式とかもしかのつどい	中学二年生を対象に、生きる目的を明らかにし、将来に向かって努力する心を養う	中学二年生	二、一(日)	総合センター	鳴沢教育をすすめる会と共催
ジュニアークツキング	仲間づくりと、創る楽しさを味わう	小・中学生	五月く三月第一・第二日曜日	総合センター 大田和公民館	
夏休みラジオ体操	夏休みに青少年が規則正しく、健康的な生活をすごせるよう実施する	小・中学生	七月中旬く八月下旬	村内	青少年育成会と共催
木彫教室	つくることの楽しさを味わう	小・中学生	夏休み、冬休み各三回	総合センター	青少年育成会と共催
少年ボランティア活動	郷土愛をたかめるため、村内の一斉美化運動を実施する	小・中学生	年聞	村内	青少年育成会と共催
愛のパトロール	夏休み中青少年が健全にすごせるよう、村内をパトロールする(危険箇所などの点検)	小・中学生	八、一四(木) 八、一五(金) 八、一六(土)	村内	青少年育成会と共催
青少年に関する情報の提供	青少年の非行や事故防止のため広報・パンフレット・村内放送を通じて情報を提供する	一般	年聞		

若い広場 ―生きるを考 える―	中学校との連携により、保護者と 中学生が「生きること」について 考えるつどい	中学生とその 保護者	一二月	総合センター	講師(予定) 龍源寺住職 松原哲明師
マチネーコン サート	生演奏に接する機会が少ないため 小規模な編成のコンサートを行う	小学生とその 保護者	十一月	小学校体育館	地域ボランティア ア
中学生ソフト ボール大会	夏休み中の体育づくりと規則正し い生活を身につけるよう実施する	中 学 生	八、一 八、三(雨天)	鳴沢スポー ツ 広場	中学校PTA鳴 沢分会と共催
ふるさととの民 話にチャレン ジ	「のがしらの池の丸太は蛇」の民 話にもなむ場所を探検する	小・中学生	八月二十一日	村 内	古老に講師案内 を願う
星空のロマン にチャレンジ	星空の星をながめ、古代の神話や 遠い宇宙へ思いをよせる	小・中学生	八月七日	総合センター	
古代の焼物に チャレンジ	縄文式のやき物と土鈴づくり	小・中学生	七〜八月	総合センター	
原始時代の生 活にチャレン ジ	堅穴式住居を造ってみる	小・中学生	一〇月	総合センター 前庭	
野生食にチャ レンジ	野生にあるドングリやスギナなど 食べられる植物の調理法や採取を 学ぶ	小・中学生	一〇月	村 内	
若人の読書会	サンテグジュペリの「星の王子さ ま」を読んで話し合う	青 年	一〇月〜二月	総合センター	

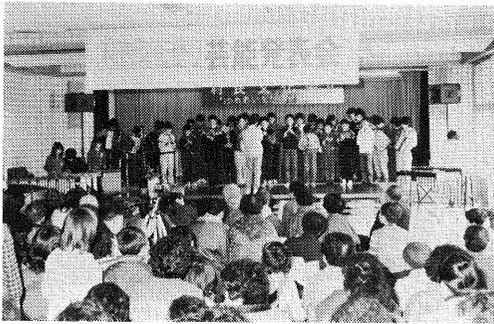
第三章 社会教育

(四) 成人教育

事業名	内容	対象	期日	場所	備考
婦人教養講座	農閑期を利用し、婦人にかかわることについてさまざまな面から学習する	婦人	十二月五日	総合センター	役場民生課との連携
婦人のための教養セミナー	婦人の教養をたかめ、より心豊かな生活を営むため学習する	婦人	一、一八夜 二、五夜 三、五夜	総合センター	
読書会	本を読んで話し合い、人生の機微にふれる	婦人	月一度	総合センター 大田和公民館	
大正琴入門教室	大正琴を初歩から学び自分でひく楽しさを味わう	一般人	一月～一月	総合センター	文化協会と共催
リフォーム教室	使いふるした端切れを利用して、匠に富んだ作品をつくる	一般人	五月～三月	大田和公民館	
民謡教室	民謡を初歩から習い、唄う楽しさを味わう	一般人	十一月～一月	総合センター	文化協会と共催
華道入門教室	生花を通して、心豊かでうるおいのある生活を営む	一般人	十一月～一月	総合センター	
民芸品教室	自然にあるものを利用して素朴なものをつくり、趣味を広げる	一般人	十一月～二月	総合センター	

(四) 芸術・文化・文化財

事業名	内容	対象	期日	場所	備考
村民文化バスの運行	村民の文化・文化財の認識を深めるため、バスを運行し県内外の文化財を見学する	一般	十一月～三月	大和村付近の武田の史跡 県内美術館めぐり 石造物をたずねて	
村民芸術バスの運行	村民が日ごろ接することができない生の演奏や舞台芸術を鑑賞する	一般	二月		
文化財審議会	文化財の保存・啓蒙について調査・審議する。	文化財審議会委員	随時	村内	
村誌編集に伴う協力	現在村で村誌を編集しており、文化財に対する資料の提供や協力を行う		年 間		郷土史研究会などとの連携
「鳴沢村のことば」改訂版の編集	すでに発行した「鳴沢のことば」を再編成し、ことばの使用例をつけて編集する		年 間		調査委員を委嘱して編集にあたる
親子の文化財めぐり	郷土なるさわの文化財を知ることにより、先人の心につれる。大田和・鳴沢両地区で実施	小学校五・六年生の親子	十月二十五日(土)		鳴沢教育をすすめる会と共催
文化団体の育成	文化協会、その他文化団体の活動を援助し、育成する	芸術・文化文化財団体	年 間		
文化協会設立十周年記念事業	記念事業として記念誌「十年のあゆみ」を発行する	一般	年 間		文化協会



村民文化祭・総合センターで

社会教育団体

(1) 文化協会

鳴沢村文化協会は昭和五十一年度に発足し、五十二年一月十五、十六、十七日と三日間第一回文化祭が開催された。それから十年を経過し、第十回鳴沢村文化祭が昭和六十一年一月十八日、十九日、二十六日の三日間総合センターで開催された。一月十七日には書道、絵画、和歌、俳句、盆栽、民芸品、工芸品、手芸など展示作品のかざりつけが行われ、十八日の午前に村長賞、議長賞、教育委員長賞、教育長賞や、それぞれの部門の優秀賞の審査が行われた。

十八日(土)の午後から十九日(日)に展示作品の公開が行われるとともに、十八日には囲碁将棋大会、十九日には芸能発表会が行われた。芸能発表会は午前九時から午後五時まで鳴沢小学校児童による演奏から始まって詩吟・民謡・舞踊・邦楽や大正琴の合奏、神楽など多彩に行なわれ、盛大であった。二十六日(日)

文化協会研修会	近隣市町村の文化祭や文化施設を見学し、村の文化の振興をはかる	文化協会の役員と部員	十一月	近隣市町村	文化協会
村文化財の保存	村内の文化財保存のため、関係団体への補助と巡視を実施する		年間	村内	
獅子神楽伝承教室	鳴沢地区に昔からある獅子神楽を若い人たちに伝承する	一般	年間	総合センター	鳴沢太々神楽継続保存会と共催

には、文化協会設立十周年記念講演として、富士桜高原別荘村に別荘をもつ女優・声優として有名な「大山のぶ代」氏の「女優・料理・人生」と題する講演があった。なおこの年、鳴沢村文化協会「十年の歩み」が発刊されている。

○歴代文化協会長・副会長

五十一年度～五十四年度

会長 渡辺清輝 副会長 渡辺静男

五十五年～五十八年度

会長 渡辺勝義 副会長 渡辺昭秀

五十九年度～六十一年度（現在）

会長 小林一吉 副会長 渡辺昭秀、渡辺長

○昭和六十一年度役員

会長 小林一吉（郷土研究部）、副会長 渡辺昭秀（写真部）、渡辺長（郷土研究部）

顧問 小林美知（村長）、渡辺勝義（前会長）、小林孝重（教育長）

理事 舞踊部、渡辺常子（鳴沢）、渡辺いみ（大田和）

詩吟部 渡辺静男（鳴沢）、渡辺五十路（大田和）

園芸部 三浦保（鳴沢）、渡辺勝義（大田和）

郷土研究部 小林一吉

邦楽部 渡辺太狼

写真部 渡辺昭秀

やすらぎ会 佐藤つね、小林やすみ

大正琴 梶原まさ子 渡辺いせ子

囲碁将棋部 小林静作 小林長門

神楽部 渡辺芳明

民謡部 小林きくえ

山草会 梶原左京

(2) 婦人会

昭和三十三年七月、婦人会報第一号が発刊された。このときの会長渡辺ふさ子、副会長渡辺あきの、渡辺ふくみ、小林ともえ、であった。この年八月三日、大田和支部では夜八時から大田和分館にて「レクリエーションの意義、その正しい理解と実技練習」(講師勝俣先生)を開催し、民謡おどりの練習をした。

昭和六十年度的における婦人会の事業は大要次のようである。

- (1) 会議 定期総会(年一回)、分班長会議(毎月)、班員会議(毎月)
- (2) 訪問活動
- (3) 班員活動についての研修(年二回)
- (4) 乳幼児健診の受診のすすめと協力
- (4) 各種検診及び学級へのすすめと協力
- (6) 第七回「たっしやまつり」に参加
- (7) 「愛育だより」の発行
- (8) 吉愛連、県愛連の活動に参加
- (9) その他、関係婦人団体との連携、村内の事業への参加

○ 婦人会役員

昭和五十八年度 会長 渡辺あやめ。支部長 小林千里、渡辺一子。副支部長 三浦百合子、渡辺操。
昭和五十九年度 会長 渡辺キクヨ。支部長 三浦百合子、渡辺操。副支部長 渡辺愛子、渡辺龍子。
昭和六十年年度 会長 渡辺キクヨ。支部長 渡辺愛子、渡辺龍子。副支部長 渡辺せる子、渡辺田恵子。
昭和六十一年度 会長 小林玉枝。支部長 渡辺せる子、渡辺田恵子。副支部長 渡辺貞子。渡辺シヤウ。

理事 鳴沢支部 渡辺喜美子(二組)、小林あきえ(二組)、小林ぶく江(三組)、渡辺久子(四組)、高木文子(五組)、斉藤輝江(六組)、小林芳美(七組)、渡辺富代(八南)、渡辺政江(八北)、小佐野美代子(九東)、小林きく江(九西)、小林千枝子(一〇組)

大田和支部 渡辺秀子、渡辺いね子、渡辺千代子、小林房子、渡辺美智子
体育指導員 鳴沢支部 佐藤保子、渡辺公子、三浦悦子、三浦勝江

大田和支部 渡辺孝子、小林まき子、小俣みち子、渡辺つね子

(3) 青少年育成推進員並びに青少年育成会

○青少年育成推進員

昭和四十九年度～五十一年度 小林一吉、渡辺長、小林さちこ

昭和五十二・五十三年度 渡辺芳明、田中ささ子、渡辺駒男

昭和五十四年度 小林さちこ、梶原哲郎(中沢進死亡により十一月一日付で任命)、渡辺長

昭和五十五・五十六年度 渡辺重雄、梶原哲郎、小林昭輪

昭和五十七・五十八年度 渡辺重男、宮崎弘、小林昭輪

昭和五十九・六十年度 渡辺喜猶、渡辺常雄、宮崎弘

昭和六十一年度 渡辺喜猶、渡辺常雄、宮崎弘

○青少年育成会役員(昭和六十一年度)

顧問 小林美知(鳴沢村長)

渡辺太狼(教育委員長)

渡辺善四郎(前会長)

会長 渡辺芳明

副会長 佐藤秀樹(鳴沢村第一区長)

第三章 社会教育

(一) 社会体育の目標

1、昭和五十九年度に実施した体育・スポーツに関する調査をもとに、いつでも、どこでも、だれでもが気軽にスポ

五、社会体育

渡辺喜猶（鳴沢村第二区長）

河口湖南中学校鳴沢分会長

鳴沢小学校PTA会長

河口湖南中学校PTA副会長

理事 鳴沢小学校PTA副会長、河口湖南中学校鳴沢分会副会長、河口湖南中学校後援会副会長、菅沢秀雄（鳴沢駐在

所）、渡辺喜猶（青少年育成推進員）、渡辺常雄（青少年育成推進員）、渡辺重男（社会教育委員長）、渡辺武一（鳴沢小

学校長、小林玉枝（鳴沢村婦人会会長）、渡辺多恵子（鳴沢村婦人会副会長）、若林正己（鳴沢小学校教頭）、大村栄（河

口湖南中学校教頭）、小林孝重（教育長）、渡辺勝義（河口湖南中学校組合教育委員）

（昭和六十年度）

青少年育成会事業

四月十八日 鳴沢地区春祭り御興巡幸

四月二十五日 大田和地区春祭り御興巡幸

六月九日 歩け歩け大会 児童生徒六四名参加

六月二十三日～八月二十四日 夏休みラジオ体操

八月三日 奉仕活動（春日神社、八幡神社等）

八月十四日～十六日 愛のパトロール

十一月二十三日 第一回子ども綱引き大会 四チーム四〇名参加

六十一年一月八日 親子スキー教室（日本ランド）三三名参加

〃二月十五日 スケート教室（ハイランド）一九八名参加

スポーツ活動を楽しめるプログラムを提供する。

2、スポーツ教室の開設、グループの育成、指導者の養成、組織の充実に努める。

3、村民の欲求にこたえ、スポーツ施設の効果的な活用を図り、照明等のエネルギーの節約をする。

4、スポーツ活動をとおして、青少年の健全育成を図る。

(二) 社会体育施設

○鳴沢スポーツ広場 鳴沢村八五三一～四五

昭和五十二年完成

総面積二二、四七二㎡、バックネット固定一、移動三

サッカーゴール二組、器具倉庫一、便所。

○鳴沢スポーツ広場テニスコート

総面積三、四一二㎡、クレー五面、器具倉庫一、便所。

○大田和スポーツ広場 鳴沢村三、〇一六～一

昭和五十三年完成

総面積四、四四六㎡、固定簡易バックネット、器具倉庫、便所。

○鳴沢村立鳴沢小学校体育施設

運動広場 総面積一一、四八三㎡

夜間照明施設 四二灯(九基) 六二・五ルックス

屋内体育館 鉄骨造、総面積七四七㎡、床面積五〇四㎡。

上屋付プール 水面積四〇〇㎡(二五×一六)、一部水深〇・四m、六コース。

ミニバスケット・コート 総面積七六〇㎡、夜間照明施設七灯(一〇〇ルックス)(テニス、ゲートボール兼用)。



鳴沢勤労者体育センター

○鳴沢勤労者体育センター

この施設は、雇用促進事業団が勤労者のために建設する体育館へ鳴沢村が合築したものである。場所 鳴沢村八五三一番九五、着工昭和五十五年九月九日、竣工五十六年二月二十八日、設計監督富士吉田市株式会社ブレイン社、施工東京都・東建建設株式会社、工事費一億五千三百七十万円（うち雇用促進事業団七千九百六十万円）。

鉄骨造・亜鉛メッキ鋼板葺平家建

建築面積一、二九一㎡、床面積一、二二四・三五㎡

体育室（九五二㎡・三四m×二八m）、談話室、更衣室、管理事務室、器具室、便所

(三) 社会体育事業（昭和六十一年度）

事業名	内容	対象	期日	場所	備考
体育指導委員 月例会	翌月の行事等の打ち合わせ スポーツ施設使用受付日	体育指導委員	毎月二十八日	総合センター	
スポーツ指導 者研修会	指導者の資質向上のための 研修会、資格取得講習会等	スポーツ指導者	未定	未定	



村民体育祭り入場行進

福祉スポーツ大会	村福祉と共催で簡単なスポーツ大会を行う	高齢者、母子、父子、身障者	九月十五日	鳴沢小グラウンド	
村民体育祭り	村民の体力づくりと親睦を図る	全 村 民	九月二十八日	スポーツ広場	
1 国体炬火リレ	かいじ国体の開催方針にのっとり、村民の連帯感を深め、大会意識の高揚を図る	小学校 保育所 婦人会	十月九日 十月十日	国道 村道	宿泊地
婦人スポーツ祭り	簡単なスポーツの紹介とゲーム大会	婦人	二月八日		

○第十三回村民体育祭り

昭和六十年十月十日（体育の日）に第十三回村民体育祭りが鳴沢スポーツ広場で行われ、九チーム、五百人が参加した。保育園児からお年寄りまで終日参加して応援に歓声をあげた。優勝は上村チーム、準優勝は山原チーム、三位は西村チームであった。この日次の体育功労者が表彰された。

体育功労者 渡辺佐一、渡辺芳明、渡辺馨、故小林徳兆

特別功労者 渡辺直、小林良一、渡辺さつ江、小林憲子、佐藤美保子

四 体育指導委員・体育協会

○体育指導委員

小林優（委員長）、渡辺宗太郎（副委員長）、今井千恵子（女子部長）、渡辺虎英（書記）、渡辺みゆき（会計）、小林武（委員）、三浦要（委員）、小林すみれ

第三章 社会教育

(委員)

○体育協会歴代役員

- 四十八・四十九年度 会長小林孝敏、副会長渡辺覚、理事長渡辺俊雄
 五十・五十一年度 会長渡辺正明、副会長渡辺月丸、理事長渡辺雄司
 五十二・五十三年度 会長渡辺覚、副会長清水延秋、理事長渡辺雄司
 五十四・五十五年度 会長渡辺建一、副会長渡辺聖俊、理事長渡辺雄司
 五十六・五十七年度 会長渡辺聖俊、副会長三浦誠、理事長渡辺渡
 五十八・五十九年度 会長小林徳兆、副会長渡辺聖貴雄、理事長佐藤勝
 六十・六十一年度 会長小林美知(六〇)、渡辺勝義(六一)、副会長梶原与作、理事長三浦茂男、理事二三名、監事二名

○体育協会関係事業(昭和六十一年度)

事業名	内容	対象	期日	場所	備考
県体育祭り	陸上競技、軟式庭球、卓球、射撃、テニス、剣道	一般	五月十八日 五月二十四日 五月二十五日	小瀬スポーツ公園 園他	村の部 第五位
歩け歩け大会	村内約七kmを歩きながらの体力づくり	一般	六月八日	村内	育成会、教委、福祉共催
職域団体ソフト大会	村内職域団体の親睦ソフトボール大会	一般 村内事業所	十月二十六日	スポーツ広場	
歩け走ろう大会	歩いたり、走ったり村内の秋季道路を散策する	一般	十一月九日	村内一五km	

村民綱引き大会	比較的簡単にできる綱引きで体力づくり。組別対抗	一	般	十一月二十三日	勤労者体育センター	
村民バレーボール大会	村内組別対抗	一	般	一月十一日	勤労者体育センター	
スキー教室	初級、中級、上級の三部門に分けての教室	一	般	二月十五日	村内 長野県	
村民剣道大会	親子大会、学年別大会、低高学年大会、一般	一	般	三月八日	勤労者体育センター	
村民卓球大会	卓球をとおして、親睦と競技力の向上をはかる	一	般	三月二十日	勤労者体育センター	

(五) スポーツ少年団

鳴沢村スポーツ少年団には左記のクラブがあり、それぞれ指導者のもとに早朝練習、冬季・夏季の練習や対外試合に励んでいる。

- 剣道クラブ 登録団員男二五、女七、計三二、登録指導者男二、女一
- 庭球クラブ 登録団員男二一、女二五、計四六、登録指導者男二、女三
- バレークラブ 登録団員男三、女二一、計二四、登録指導者男三、女一
- スケートクラブ 登録団員男一二、女三、計一五、登録指導者男二
- 野球クラブ 登録団員男三一、計三一、登録指導者男一
- 卓球クラブ 登録団員男二一、女二三、計四四、登録指導者男二、女一
- 柔道クラブ 登録団員男一〇、女四、計一四、登録指導者男一

(清 水 小太郎)